

2019/7/21 関高校模擬国連 企画報告書

作成：中川 慶（模擬国連日吉研究会 OB）



目次

企画実施の経緯	2
企画の構成	2
会議経過	4
決議案	5
会議中の様子	7
レビュー・今後に向けて	10

企画実施の経緯

関高校ではこれまで、2018年に高校生を対象にした初心者向け企画を実施した。2019年は、近隣の公立中学校に通う生徒を対象とした初心者向け企画を実施した。今回のような企画は、日本国内において、おそらく前例のない企画となった。

企画の構成

今回は模擬国連会議の参加経験がない初心者向けの企画になるようにし、概要説明→課題→会議（議題：国連カフェのメニューの決定）→講評の構成とした。

1. 事前課題

本企画において、参加者に以下の事前課題に取り組むように指示した。まず、「模擬国連会議 参加の手引き」を作成し、参加者に読んでもらった。この手引きには、担当国の政策形成の方法（後述）や企画当日における会議の流れ・スケジュールを記載した。この手引きを読むことで、模擬国連会議に参加したことのない参加者においても、事前の政策形成から会議当日に至る一連の流れを理解してもらうことを意図した。

次に、担当国の政策形成に関して、参加者には担当国の基本情報や主要作物の生産高・生産順位を記した「ポジション・ペーパー」を配布した。そのポジション・ペーパーを基に、自国の戦略や主張などを「ポリシー・ペーパー」にまとめてもらった。このポリシー・ペーパーの設問に答えれば、自国の戦略や主張などを検討することができるようになっており、このポリシー・ペーパーによって、参加者は自国の政策形成を行った。

2. 概要説明

企画当日の冒頭において、全体の流れに関する説明を行った。具体的には、以下の通りである。

- 模擬国連活動に関する説明
- 会議の内容（国連カフェについて）
- 会議の流れ（全体交渉・自由交渉・決議案の作成）
- タイムスケジュール

3. 会議

今回の会議においては、「簡易プロシージャー」を採用した。簡易プロシージャーにおいては、大使がモーション（全体交渉、個別交渉、決議案の提出）を行わず、議長がモーションを発動することとした。これは、初心者である参加者がプロシージャーを一通り理解するのは非常に難しいため、一部を省略しようとしたためである。プロシージャーの理解は次回以降の企画に譲り、参加者が会議の中味に関する議論に集中し、議論を深めてもらうことを

第一義とした。

会議は 2 人 1 か国の担当（ペア・デリゲート制）で行い、当方で運営を以下の通り行った。

役職	担当者	業務内容
会議監督	当方	<ul style="list-style-type: none"> ● これからの会議の流れの説明（その都度実施） ● 大使からの質問受付 ● 運営スタッフの統括 ● 議事メモの作成
議長	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ● 議事進行（英語） ● 全体交渉（モデレート・コーカス）の仕切り人（ファシリテーター）を務めて、会議の方針の決定、全体の交渉内容の共有
副議長	高校生	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体交渉（モデレート・コーカス）の仕切り人（ファシリテーター）を務めて、会議の方針の決定、全体の交渉内容の共有 ● 決議案の取りまとめ

会議の議題は、以下の通り「国連カフェのメニューの決定」とした。これは、「ニューヨークの国連本部内に『国連カフェ』を開店させることになり、この会議において、そのメニュー（ドリンク 10 品・フード 10 品）を決定してほしい」と国連広報センター（United Nations Information Center）のから提案があったという想定にした。

種別	内容
議題	「国連カフェのメニューの決定」 ※実在はしない。 (Deciding the menu of United Nations Café)
設定会議	第 73 会期国際連合総会本会議 (73rd Session of the United Nations General Assembly Plenary Meeting)
論点 1	ドリンクメニュー <ul style="list-style-type: none"> ● 10 品まで、4 つまでの産地の表示を義務付ける。
論点 2	フードメニュー <ul style="list-style-type: none"> ● 10 品まで、産地の表示を不要とする。
論点外	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー・産地の日替わり制 ● ドリンク・フードのセットメニュー

ドリンクメニュー10品は産地の表示が4つまで可能であり、フードメニュー10品は産地の表示を不要とした。これは、ドリンクで産地が出せなくとも（国益にならなくても）、産地表示の必要がないフードを提案できれば、国益が達成できるようにしたためである。つまり、参加者の柔軟な創意工夫によって、国益が達成できることを意図した。

また、論点外（アウト・オブ・アジェンダ、今会議で議論できない事項・禁止事項）を「日替わり制」「セットメニュー」とした。これは、「日替わり制」「セットメニュー」によるメニューの増加を意図的に防ごうとしたからである。参加者にはメニューのアイデア出しを積極的に行ってもらいたい一方で、メニューを規定の数に制限して、参加者同士でメニューの議論、ないしは紛糾してもらいたかった。言い換えれば、単なるメニューのアイデア出しの会議ではなく、そのメニューのアイデアのいかにして収斂させていくかを学んでほしかったのである。

会議経過

会議は、議長の開会宣言と出欠確認によって始められ、全体交渉①にて、各国のメニュー案の共有を経て、議論の進め方に関する議論が行われた。ここでは様々な意見が出されたが、初めに①ドリンクとフードを2つに分けて議論することが決定され、最初の自由交渉はドリンクメニュー、次の自由交渉はフードメニューの議論時間となった。次に②ドリンクのアルコールが3 枠まででとなった。最後に③メニューに地域枠を設定し、複数の選択肢が出される中で、アジア 4、北米・ヨーロッパ 2 つずつ、南アメリカ・アフリカ 1 ずつ割り振ることとなったが、北米の枠を減らすべきと意見が出され、それは決めずに、自由交渉に移行した。自由交渉①では、各国大使がそれぞれのドリンクメニューを持ち寄り、共同でメニュー案を形成し、お昼休憩に入った。

お昼休憩後の全体交渉②において、まず、先の自由交渉で出されたドリンクメニュー案が共有された。次に、先の全体交渉①で決定された地域枠の配分を取り止めたいという意見が出され、賛成多数で取りやめとなり、地域枠に縛られずにフードメニューを議論することになった。さらに、まずはドリンクメニューを確定させてから、フードメニューを議論したいと意見が出されたため、ドリンクメニューの確定を行うことになった。この際、ドリンクメニュー10 品のうち、アルコール枠を3 品としていたが、4 品出されていたので、上位3 品を各国大使の投票で絞り込み、ノンアルコール枠の7 品はその上限以内に収まっていたので、無投票で決定された。これを受けて、自由交渉②ではフードメニューを議論し、こちらも共同でメニュー案を形成していった。最後の全体交渉③において、フードメニューは20 品となり、10 品に絞り込みが必要となった。この際、ドリンクメニューを提供できていない国を優先的に選出することになり、その結果、20 品中3 品が「優先枠」として決定された。そして、残りの17 品から上位10 品を各国大使の投票で絞り込んだ。こうして、ドリンク・フード10 品ずつが決まり、その内容を盛り込んだ成果文書は、1 国の反対もない全会一致で採択された。こうして、約4 時間に及んだ会議は、白熱した議論のうちに終了した。



General Assembly

Distr.: Limited

Original: Japanese

Seventy-third session

Agenda item: Deciding the menu of United Nations Café

Draft Resolution

The General Assembly (国際連合総会は)、

Recalling that United Nations Café would be built in the headquarter in the United Nations in New York in 72nd session,

第72会期において、ニューヨークの国際連合本部内に国連カフェの設置が決定されたことを想起し、

Recalling the concept of United Nations Café as “Multi-Culture and Refresh”

国連カフェのコンセプトを「多文化及びリフレッシュ」とすることを認識し、

1. *Decides* the drink menu of United Nations Café as the following;

ドリンクメニューを以下の通り決定する。

ドリンクメニュー	産地 (5つまで)
紅茶	インド、イラン、ベトナム、ケニア
フルーツジュース	インド、中国、フィリピン、アメリカ
ブレンドコーヒー	ブラジル、インド、ベトナム、メキシコ
シードル (炭酸飲料)	フランス、イタリア、アメリカ
いちご牛乳	イタリア、中国、トルコ、メキシコ
マルガリータ	メキシコ、アメリカ、中国、インド
すりおろしりんごのホットティー	トルコ、ブラジル、インド、ケニア
ビール	ベトナム、アメリカ、ドイツ、フランス
日本酒	日本、中国、アメリカ

マンゴージュース	タイ、インド、アメリカ、メキシコ
----------	------------------

※赤字はアルコール枠。

2. *Decides* the food menu of United Nations Café as the following.

フードメニューを以下のとおり決定する。

フードメニュー
シュラスコ
バームクーヘン
カレー
レモンのロールケーキ
おにぎり
ピラウ
タコス
アプリコットとチョコのガトーショコラ
羊肉パイ
生春巻き

会議中の様子

	<p>出席確認</p> <p>写真では、議長に呼ばれて、プラカードを挙げて返答している。</p>
	<p>全体交渉① (モデレートコーカス)</p> <p>各国がメニュー案について、発表・共有を行った。</p>
	<p>全体交渉① (モデレートコーカス)</p> <p>同上。</p>



全体交渉①
(モデレートコーカス)

今後の議論の進め方に関して話し合った。



自由交渉①
(アンモデレートコーカス)

先の全体交渉を踏まえ、自由交渉にて、メニュー案を話し合った。



自由交渉②

全体交渉②にてメニュー案の共有後、最終のメニュー決定前の詰めの協議を行った。



全体交渉③

メニュー案の共有を行った後、フード10品に絞り込み、最終的なメニューが決定された。



優秀大使の表彰 (ブラジル大使)

多くの国と共同で提案できるメニューを提案し、表彰となった。



最優秀大使の表彰 (メキシコ大使)

最初のスピーチ、全体交渉における発言、自由交渉の動き、最後のメニュー採用数など、総合的に評価され、表彰となった。

レビュー・今後に向けて

これまでの模擬国連活動において、主に中高一貫校の中学生が会議企画に参加したことは多数あるが、近隣の公立中学生が参加する高校における会議企画は、おそらく日本で初めてとなった。そのような企画開催にあたり、うまく進むか心配な面があったが、実際に実施してみると、この最近の当方主催の高校生会議の中において、最もうまく進んだ会議となった。このあたりの要因について、考察を述べたい。

まず、議論時間は1日確保され、参加人数が約30名程度と、開催条件がかなり良かった。半日では議論が煮詰まらずに終わってしまうことがあるが、1日確保されていたので、腰を据えて、しっかり議論できる環境にあった。さらに、30名というのは、多すぎず少なすぎず「程良い」人数であり、一人ひとりが議論に入ることができ、かつ交渉や議論がしやすい状況にもあった。ただ、このような好条件だけでは、今回のようにはうまく進まない。そこには、①全体交渉が活発に展開されたこと、②参加者が積極的だったことの2点を挙げることができる。

①については、何と云っても、冒頭の全体交渉の発言が多く、建設的であったことは特筆に値する。全体交渉における発言は自由なので、発言が出ないことも想定されたが、良い意味で予想を裏切られた。多くの大使が臆せず積極的に発言し、会議の方向性や今後の議論の進め方が決まっていた。今回の会議企画において、この冒頭の全体交渉は成否を握る鍵であった。仮に、冒頭の全体交渉で方向性や進め方が決まらなければ、自由交渉が「自由」になり過ぎてしまい、何を話すべきか定まらずに、単なる「おしゃべりの場」と化してしまう危険性がある。しかし、冒頭の全体交渉の場で、方向性や進め方がしっかり具体的に決まったので、それにしたがって、自由交渉を有意義に展開でき、効率よく進められた。

次に、①にも関連するが、②参加者の積極性についても、大いに評価されるべきである。どの参加者もしっかりと準備できていた。おそらくは、初めてで確固たる正解がない中で、事前準備は気苦労が多かったと推察される。しかし、そのような状況にあっても、自分なりに準備したからこそ、冒頭のスピーチでは、中にはポスターまで作成して、しっかり説明ができたり、自由交渉においては、自国提案のメニューが採用されるように他の参加者と突き詰めて議論できたりしたのだと考えられる。1日にわたる会議企画であったが、最後まで集中力を切らしていなかったことから、参加者の積極性を感じる次第であった。

アンケート結果より、比較的に高い満足度であることがわかった。筆者としても、貴重な経験となった。今回の企画実施にあたり、関高校の林先生をはじめとする先生方、中学校の先生方、学習塾の先生方に、改めて感謝を申し上げたい。

以上